

昭和63年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖縄県
専門技術員室名称 沖縄県水産業改良普及所専任技室
普及区域 本島一円

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	1. 普及職員連絡協議会	11月	普及所	普及職員		普及活動計画のみなおしにあたっては、職員間の考え方について、意見交換を行った。地域活動計画の柱は、(1)重点(濃密)指導地域、(2)重点(濃密)指導集団、(3)担い手育成の3本柱により計画作成を実施する。本計画は89年4月1日より実施。(詳細については地域活動計画のたて方参照)	89年度で計画案を作成し、90年度から実施する。(担し、89年度でスタートできる課題についてはその限りでない。)
	2. 漁業士会議	7月	普及所	漁業士	市町村、漁協	沖縄県漁業士の密接な連携と研さんを通じ、漁業士相互の理解を深めるとともに沖縄県漁業士の中核者としての資質の向上を図ることを目的に、7月7日午後1時30分から普及所で開催した。会議には、指導漁業士4人、青年漁業士7人が参加し、(1)漁業士の役割(2)漁業士会の結成について協議された。漁業士会結成については、89年度の11月をめどに結成準備を進めることで確	漁業士会結成後の漁業士活動への援助

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	者等	普及活動経過	翌年度への展開事項
							認された。事務局は当面、普及所に置く。(普及だより21号参照)	
	3. 漁協青壮年部部長 事務局会議	3月	普及所	青壮年部	市町村、漁協		63年度は、部会班設置及びメンバー構成、組織のみなおし再編等について移動相談を実施した。3月15日の部長事務局会議で部会班の設置状況の再確認をすることにも進行状況について報告させ、89年の課題設定に向け援助する。	部会班ごとの課題設定と組織の強化(指導漁業士とのタイアップによる組織の強化を図る。)
企画事業	4. モズク養殖生産者会議	11月	普及所	生産者	市町村、漁協		量から質の時代に移行する中で、いかに品質の良いモズクを作るかが最大の課題である。実現のためには、漁業者の認識と協力が必要である。昭和63年11月11日に同会議を開催した。会議では、生産現場から伊平屋漁協の品質管理と知念漁協の加工後の保存管理(常温)について、それぞれ報告があった。また、「塩蔵モズクの適正用塩量及び保存温度について、水試より説明があり、活発な討議が行われた。(当日参加者50人：詳細については普及だより22号参照)	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	5. ヒトエグサ養殖生産者会議	8 月	普及所	生産者	市町村、漁協	ヒトエグサの養殖は、天然採苗を主体に養殖が始められて30数年になるが地域によっては、まだ、安定生産までにはいたっていない。同会議では、養殖技術を中心に、意見交換が昭和63年8月30日普及所で開催された。会議ではアンケート調査をもとに、各地区ごとに報告があり、最後に全体討議による意見交換を行った。参加漁協は、伊平屋、伊是名、本部、恩納、北中城、八重山の6漁協で24名の参加があった。(詳細については、普及だより22号参照)	
	6. 普及資料及び広報の発行 (普及だより)	9 月 2 月	普及所	青壮年部 生産者グループ	市町村、漁協	第1回は、9月20日に第21号発行 第2回は、2月15日(89年)に第22号発行 現場との情報活動の一環として発行した。(詳細は普及だより参照)	89年度は、3回予定
試験事業	クビレオゴノリの増養殖試験 (技術改良試験)	4 月～ 3 月	糸満、 貝志川	青年部、 生産グループ	市町村、漁協	1. ネットロンシート養殖 同養殖方法については、条件がたとのえは十分可能であろう。ただし海中での長期保存のため台風等十分に考慮する必要がある。尚、シート	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
試験事業	クビレオゴノリの増養殖試験（技術改良試験）	4月～3月	糸満、具志川	青壮年部生産グループ	市町村、漁協	養殖の手順については（昭和63年度改良試験報告書参照） 2. コレクター（貝殻）垂下養殖 ネットロンシート養殖と平行して、昭和63年度は、コレクターによる果胞子付と保存垂下養殖を主体に実施した。 1) 方法 囊果形成のいちぢるしい囊体を放出促進のため4～6時間干出処理した後、採苗藻体として使用した。附着器はヒオラギ貝の殻を使用した。用し、$4.5m \times 1.2m \times 0.7m$の大きなタンクで果胞子付と同じに、保存を5月～9月までの4ヶ月間実施した。保存後は、10月に入ると同じに延縄式垂下方法で垂下沖出しし、成育状況を調査した。 2) 結果 沖出し後、58日目に1回目の摘採ができた。（一連当り約1500g）2回目以降は1ヶ月間隔でシーズン中に2～3回可能である。貝殻	（昭和63年度） （昭和64年度）

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
						コレクターによる垂下養殖では、 (1)果胞子による垂下養殖（5月～9月保存10月～6月垂下養殖）と (2)直接果胞子付による垂下養殖（1月～2月採苗、3月～6月垂下養殖）が可能であろう。また、深度別による生育状況は、上部＜中部＜下部の順となっている。（詳細は、技術改良試験報告書参照）	
一般指導事業	1. モズク環境調査指導	5月、6月	知念、与那城、恩納、本部、伊是名	生産者	市町村、漁協（宮古地区普及員）	漁場環境による生育の状況説明ができないものかと、水試との共同調査を実施した。（地域の成績の違いに係わる要因） 1) 方法 5 地域を選定して、5～8点で調査した。調査項目は、水深、潮流、SS、栄養塩濃度及び底質について実施した。 2) 結果 (1) 栄養塩濃度は、養殖前に比べ終了時にはかなり低くなっている (2) 他の海域での調査では、このようにながいはみられない、こ	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
一般指導事業						の低下は、モズク養殖によるものと考ええる。 (3) 育苗地と本張り地での環境が異なることが予想されたが、今回の調査では注目すべきちがいはみられなかった。(詳細については、水試報告書参照)	
	2. スジアオノリの養殖及び漁場環境調査	11月～6月	恩納村	青年部	市町村、漁協	スジアオノリは、採苗及び養殖技術については、それほど問題はないが淡水の影きようによる生育との関係が顕著である。特に色出しについては、淡水とのかかわりが強い。ため、水試内のタンクで実験した結果、37%＜35%＜25%＜15%と生育、色出しとも、25%～15%区が良い結果であった。 89年度は、88年度の実験結果を参考に養殖方法等検討したい。	
	3. クビレヅタ養殖及び漁場環境調査指導	4月～10月	具志川	青年部	市町村、漁協	1. クビレヅタは、本島周辺海域では生育しないといわれていた。(各地区で試みるが成功例がない)オゴノリの改良試験と平行して、金武湾の5地点区にカゴ(アンドンカゴ)を垂下して、漁場環境調査を実施した	具志川町の環境改善

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
							所、同湾の通称城ヌ前地先で生育可能であることが明らかになった。調査の結果この地点は、他の地点より栄養塩が4～5倍も高いことがわかった。 2. ホヤ（ミナミウスボヤ）の異常発生による、①低塩分耐性試験、②クビレゾタ葉状部の耐性試験を疏大で実施した結果、⑦ホヤは、淡水に弱く15分で死滅、④クビレゾタは20分間であれば「しわくちやにならない」ことがわかった。（第13回発表大会資料参照）	
一般指導事業	4. 漁協青壮年部育成指導（担い手育成）		4月～3月	県下12地区の青壮年部 国頭、伊平屋、伊江、恩納、具志川、石川、沖縄市、勝連、知念、港川、糸満、久米島	青壮年部	市町村、漁協	昭和63年度は、12地区の漁協青壮年部について、移動相談を実施した。相談内容については、下記の通りである。 1) 部会や班のメンバー構成と設置 2) 組織の再編を必要としている青年部の指導援助 部会、班の設置及び実施状況について は、漁協青壮年部移動相談経過を参照 （昭和63年度部長事務局会議資料）	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
普及員	普及員一般研修		本島地区	普及員	専門技術員	「漁協青年部活動の進め方」 (部会及び班毎の課題設定について) 移動相談を進める中で担当地区普及員 とコミュニケーションを図りながら活 動の進め方について実践した。	
	漁業技術一般研修	9月6日 1月5日 12月8日 12月16日 7月22日 2月9日	勝連(津堅) 久米島 伊平屋 八重山 具志川 名護	生産グループ	専門技術員	1) モズク盤状体冷蔵保存講習会の実 施 2) モズク養殖についての講習会の実 施 3) ヒトエグサ養殖管理についての講 習会の実施(育苗、本張り管理) 4) クビレヅタ収穫後の保存処理につ いての講習会の実施 5) クビレオゴノリ養殖についての講 習会の実施(ネットロシシート及びコ レクター垂下養殖)	
漁業者							

昭和 63 年度普及区域指導活動記録

都 道 府 県 名 沖 縄 県
改良普及員室名称 沖縄県水産業改良普及所普及員室
普及区域 沖縄本島地区

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	者等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	漁村青少年協議会	6月	本島地区	漁村青少年	漁市町	協村	第1回会議 。昭和63年度漁業後継者対策事業実施計画について 。少年水産教室について 。漁業士等育成事業について 第2回会議 。昭和64年度漁業後継者対策事業計画について 。昭和63年度漁業後継者対策事業実施状況について 。昭和64年度漁業士の推薦について 。昭和63年度少年水産教室について 第3回会議 。昭和63年度漁業後継者対策事業実施状況について 。平成元年度漁業後継者対策事業計画について 。少年水産教室受講生追跡調査結果について	
		10月						
		3月						

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	者等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	普及資料 「おきなわのさかな」	3月	全地区	漁協、学校、ホテル、鮮魚店等	水 漁	試 協	。後継者育成、魚食普及のための資料としてポスターを作成し、配付	継続
	沿岸漁業改善資金運営事業	4月 ～3月	普及所	沿岸漁業従事者等	漁 政 課 管農指導課	試 連 連 村 協	沿岸漁業改善資金運営協議会の開催 1. 開催日時 第1回 昭和63年8月22日 第2回 昭和63年11月24日 第3回 平成元年2月17日 2. 申請状況 時期 資金種類 件数 事業費 申請額 (件) (千円) (千円) 第1回 経営改善 56 132,372 109,722 第2回 " 34 43,064 38,274 第3回 " 37 68,048 55,755 合計 " 127 243,484 203,751	
	水産普及だより	9月 2月	全地区	漁 協 市町村	漁 市 町 村	協 村	漁協や関係機関との情報交換、現場情報の提供のため7月と2月の2回発行した。	
	沿岸域計画営漁推進事業	63年4月～64年3月	久米島	漁業者 漁 協	村、その他	その他	地域漁業の問題点及び営漁意向を把握し、地域営漁計画の作成指導を行った。	事業内容を一部変更し、伊平屋漁協で実施する予定。

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	漁業士育成事業	9月～3月	沖繩一円	青壮年漁業者	漁 市 町 協 村	青年漁業士については別紙のとおり昭和63年11月8日～11月10日までの3日間研修講座を受講した。昭和63年度は下記のとおり認定された。 名誉指導漁業士 又吉久保 伊江漁協 トビロープ指導漁業士 吉山盛吉 恩納村漁協 ヒトエグサ養殖 我部政祐 本部漁協 モズク養殖 玉元輝英 那覇市沿岸漁協 追込網曳 縄 青年漁業士 諸見仁康 伊平屋村漁協 モズク養殖 新垣和信 伊江漁協 底延縄 照喜名智 知念漁協 定置網、パヤオ 佐久本昌治 池間漁協 一本釣	継 続
調査事業	漁業公害調査	4月～3月	沖繩本島地区9地点	漁業者	漁 協	沿岸の水質測定（水温、DO、PH、比重等）	継続実施
研修事業	特別研修	8月29日～9月4日	熊本県天草	漁業者	熊 本 県	漁船漁業における活魚出荷と流通 研修内容：活魚の流通の盛んな熊本県天草地区の活魚出荷について実地研修した。 特に底魚を釣り上げた時に浮袋内の空気を抜く方法について実演	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	者等	普及活動経過	翌年度への展開事項
研修事業	交流学習会	8月29日 ～30日	恩納村	漁協青年部	漁 協	協 村	を交えて研修した。 また、船内や海上生簀、陸上生簀での水や魚の管理についても学習した。 参加者：港川漁協青年部 2名 自主参加 5名 講演及び講師	
				組合員 役職員 市町村水産 担当者	漁 市 町 村	協 村	「漁場自主管理について」 愛媛県宇和島市遊子漁協長 古 谷 和 夫 氏 参加人員 54名 専門技術員による行政一般及び専門技術についての研修	
		6月	糸 満	普及員	専 技	技	昭和63年度全国水産業改良普及職員行政研修に2名参加 資源管理型漁業について情報収集及び地元青年部との意見交換会 魚類養殖の現状視察及び養殖に関する技術交流	
		10月	東 京	普及職員	水 産	庁		
		9/29 ～10/2	大分県姫島 村	青年漁業士	姫島漁協			
試験事業	新技術実証事業	7月3日 ～6日	鹿児島県奄 美大島	組合員	瀬戸内漁協	瀬戸内町		マグロ類の鮮度保持試験 目的 マグロ類のヤケの原因究明 循環型魚倉の効果確認 方法 PH、魚体温度調査によりヤケ
		4月～ 3月	久米島 糸 満		漁 業 者 協 漁			

事業区分	課	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
試験事業							マグロの原因を探る。 技術改良試験で使用する循環型魚倉の効果をPH調査と並行して再確認	
指導事業	水産物の加工指導 (トビウオ、シラヒゲウニ)		4月～3月	伊江島 糸満 渡名喜島本部	漁業者 漁協 婦人部	村、水試、生 改普及員等	トビウオは、伊江島、糸満において、実験的な加工及び販売について指導を行った。 シラヒゲウニは、渡名喜島、本部において、一次処理の技術指導を行った。	
	漁場自主管理指導		4月～3月	恩納 久米島等	漁業者 漁協	漁政課水試等	資源管理型漁業を推進するため、特に漁協、漁業者が自主的に行う漁獲管理、密漁対策について指導を行った。	
	シヤッコ貝放流指導		4月～3月	中城、恩納 本部、勝連 久米島、 伊江、読谷	漁業者 漁協	水試 栽培センター 市町村	シヤッコ貝の放流について指導を実施し放流方法、放流適地の選定、人工基質の検討、放流後の保護管理について指導を実施した。 また、前年度に放流した区域のシヤッコ貝調査を実施した。 詳細は本報告書参照	
山崎定夫								
倉田隆夫								島民の心を開く

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
指導事業	青年水産教室	6月14日	恩納村	漁業者 漁協職員 市町村水産担当者	漁市町	講演及び講師 「珊瑚礁域の栽培漁業について」 琉球大学海洋学科 諸喜田茂充氏 参加人員 45名	
		1月27日	那覇市	漁業者 漁協職員 市町村水産担当者	漁市町	講演及び講師 「漁協青年部実践活動について」 鹿児島県漁青連顧問 川畑三郎氏 参加人員 319名 実績発表大会と同時実施	
	少年水産教室	7月25日 ～29日	糸満市 (普及所)	中学2～3年生	漁市町 関係機関	夏休み期間中を利用して、水産に関する初歩的な知識と技術について学習させた。	
指導事業						参加者 伊是名漁協 5名 伊江漁協 2名 本部漁協 3名 与那城漁協 4名 港川漁協 2名 糸満漁協 1名 八重山漁協 3名 合計20名	
	漁村青壮年婦人活動実績発表大会	1月27日	那覇市 水産会館	青壮年部 婦人部 研究グループ	漁市町 関係機関	発表者及び発表課題 。知念漁協青年部 西銘喜久 複合経営と青年部活動 。本部漁協婦人部 渡久地清子 特産品カツオ付加価値の向上 。貝志川市漁組青年部 佐久本重夫	
指導事業							翌年度への展開事項

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	者等	普及活動経過	翌年度への展開事項
指導事業	指導事業	漁協青年部移動相談 (巡回指導)	4月～ 3月	本島地区	漁協青年部 青壮年部	漁市町	協村	クビレツタ養殖とホヤ対策 。池間漁協婦人部 勝連カヨ子 カツオのふりかけ開発について 。八重山漁協青年部貝類増養殖研究グループ 具志堅 武 資源管理型漁業をめざして 参加者 319名 漁協青年部や青壮年部と活動状況等についての意見交換を行い、地域にあったグループ活動を検討 実施場所 国頭、久米島、沖縄市、伊江、知念、港川、具志川、石川、伊平屋、糸満、恩納、勝連 羽地漁協大宜味支部の魚類養殖グループと北谷町漁協の養殖業者、伊平屋村漁協青年部にマダイ、ハマフエキコガシマアジ、シモフリアイゴ等の海産魚類養殖指導を実施した。(詳細については、昭和63年度普及活動報告書参照)。 うなぎ養殖施設を利用したオニテナガエビ養殖指導を実施した(詳細については昭和63年度普及活動報告書参照)	
指導事業	指導事業	魚類養殖指導	4月～ 3月	大宜味村 北谷町 伊平屋村	養殖グループ 漁協青年部	漁市町 水産試験場 栽培漁業センター	協村 試		
指導事業	指導事業	オニテナガエビ養殖指導	4月～ 3月	今帰仁村	内水面養殖業者	水市町	試村		

事業区分	課	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
指導事業	フクトコブシ養殖試験指導		4月～3月	伊江村	伊江漁協 青壮年部	漁市町水	伊江漁協青壮年部にフクトコブシとミミガイのカゴ養殖試験指導を実施した（詳細については昭和63年度普及活動報告書参照）。	
	沿岸漁業改善資金調査指導		4月～3月	普及地区	漁協 沿岸漁業従事者等	市町漁	沿岸漁業改善資金申請に対する指導申請者の調査指導、事業実施及び変更に対する指導調査、事業実施後の借受者調査及び貸付確認調査、事業実施後の指導等を行い、沿岸漁業改善資金の円滑な運営を図るとともに、改善資金の趣旨及び内容の啓蒙指導を実施した。	継続
指導事業								第1回～第10回の開催指導

昭和 63 年度普及区域指導活動記録

都 道 府 県 名 沖 縄 県
改良普及員室名称 宮古支庁農林水産課
普及区域 宮古地区

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	漁村青少年協議会	6 月 9 月 1 月	平良市	後継者	宮古水産高校 市 町 村 漁 協	第 1 回 (6 月 13 日) 議題 1. 昭和 63 年度宮古地区漁村少年 水産教室の取組について 2. 青年水産教室について 3. 昭和 63 年度漁業後継者対策事業実 施計画と昭和 62 年度実施状況につ いて 4. その他 第 2 回 (9 月 9 日) 1. 1989 年度漁業後継者対策事業計画 立案について 2. 昭和 63 年度宮古地区少年水産教室の 反省と今後の対応について 3. 昭和 63 年度漁村青壮年婦人活動実績 発表大会について 4. その他 第 3 回 (1 月 30 日) 1. 平成元年度漁業後継者対策事業計画	継続実施
企画事業							

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
						について 2.昭和63年度漁業後継者対策事業実施状況について 3.平良市漁協青年部の再建について 4.その他	
	沿岸漁業改善資金 運用事業	7月 10月 1月	糸満市	漁業者	市 町 協 漁 協	ロランA航法装置 4件 低燃費機関 2件 自動操舵装置 1件 油圧装置 1件 漁獲物横異動防止装置 1件	継続実施
調査事業	漁業公害調査 漁協青年部活動調査 魚礁の効果調査 ノコギリガザミの 放流効果調査	4～ 3月 4～ 3月 4～ 3月 4～ 3月	与那覇湾 伊良部町 宮古地区 全域 下地町入 江湾	漁業者 後継者 漁業者 漁業者	市 町 協 市 町 協 市 町 協 漁協、市町村 平良市漁業協 下地町 平良市栽培漁 業センター	水質調査 (DO, PH, 比重) を実施した。結果は別途報告 昭和62年度に引き続き、伊良部町漁協青年部について調査した。 詳細は、別途報告 大型魚礁の設置位置調査及び効果利用調査を実施した。 日本栽培漁業協会八重山事業場からアミメノコギリガザミの稚ガニ123千尾を受入下地町入江湾 (面積34ヘクタール) に中間育成したあと放流した。昭和60年以降の中間育成及び放流、その後の調査結果は、1989年度普及活動	継続実施

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
	ウニ礁効果調査	4～3月	島尻地先 大神島西側海域		漁協、市栽培 漁業センター 県水試	報告書を参照 大規模増殖場造成事業で設置したウニ礁の効果を2カ所で実施した 調査年月日 昭和63年7月8日 昭和63年7月19日 大神島地先 5000×11ブロック 5000×16ブロック 調査結果 (1)大神島西側ウニ礁では、ユスユキウミウチワ、イトクズグサ、ケイソウ類が着生しているものの、ホンダワラの生育はみられなかった。 またナガウニの発生が多くみられた (2)島尻地先のウニ礁では、昭和62年まで確認できなかったホンダワラが16ブロックのうち13ブロックに繁茂していることが確認できた。 またホンダワラは水深の浅い陸域に近いウニ礁ほど発生が多く沖側の区域にはみられなかった。	継続実施 沿岸漁業整備開発事業	
指導事業	グループ活動育成指導	4～3月	管内全域	青壮年	市町村、漁協	今年度は平良市漁協城辺地区浦底漁業研究会を結成(12月1日)、結成総会で「組織と人間」という題で学習会を開催した。	継続実施	

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
	少年水産教室		8月	宮古水産高校	中学生	宮古水産高校 漁協 市町	会長 渡久山 清 会員16名 宮古地区独自開催は昭和62年度に引き 続き2回目、62年度の参加者は22名、 63年度は学校現場の理解と協力のもと 32名増加、生徒管理上人員を制限した ことは今後の反省課題である。アンケ ート調査の結果、90パーセントの生徒 が将来水産関係に進む意向を示した。 演題「宮漁簿の記帳方法とその実践」 講師 記帳の理論 伊徳洋漁業会計主任 税理士 奈良俊一郎 記帳の実践面 伊良部町漁協青年部長 前里 吉昭 奈良俊一郎氏の講演概略 記帳の目 的は、もうけたか欠損したかである。 それは、収入金額から、必要経費を引 いて損益がでる必要経費は、毎日の伝 票、領収書をそろえておけば、計算が でき、事業計画、確定申告の際に役に たつ。 前里吉昭氏の講演概略 毎日の宮漁	継続実施
	青年水産教室		7月	平良市漁協	青壮年	漁市 町		継続実施

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
	漁村青壮年婦人活動実績発表大会	1月	那覇市	青壮年婦人グループ	農業改良普及所 漁協		簿の記帳によって、経費の増減を把握している。また、水温、水色、潮目、潮流の状態も記帳しており、したがって魚がどの場所にいるか判断がつき、むだな経費と労力を省き漁業経営が向上する。	
指導事業	魚類養殖指導	4月～3月	伊良部町	漁業者生産グループ	伊良部町村 漁協		ことは、「かつおのふりかけ開発について」という題で、池間漁協婦人部の勝連カヨ子さんの出場指導にあたった。 今年は、ミナミクロダイの成長について調査した。 その育結果は次のとおり 年 月 日 昭和62年4月1日～昭和63年10月28日 平均尾叉長 30mm 197.5mm 平均重量 0.5g 177.4g 育日数 0日 575日 肥満度 0.02% 0.02% 日間増長率 0% 0.51% 測定尾数 20尾 25尾 詳細は別途報告	継続実施
								継続実施

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項																				
	モズク養殖指導	7月	管内全域	漁業者 生産グループ	漁市町村 市栽培センター	昭和63年度のモズク生産実績 養殖漁業者数 94名 生産量及び金額 単位: kg、千円 <table><tr><th>種別</th><th>網数</th><th>生産量</th><th>金額</th></tr><tr><td>イトモズク</td><td>6,071</td><td>325,050</td><td>83,547</td></tr><tr><td>フトモズク</td><td>5,006</td><td>336,336</td><td>34,360</td></tr><tr><td>天然フト</td><td></td><td>2,250</td><td>225</td></tr><tr><td>合 計</td><td>11,071</td><td>663,666</td><td>118,357</td></tr></table>	種別	網数	生産量	金額	イトモズク	6,071	325,050	83,547	フトモズク	5,006	336,336	34,360	天然フト		2,250	225	合 計	11,071	663,666	118,357	継続実施
	種別	網数	生産量	金額																							
イトモズク	6,071	325,050	83,547																								
フトモズク	5,006	336,336	34,360																								
天然フト		2,250	225																								
合 計	11,071	663,666	118,357																								
	クビレヅタの養殖指導	4～3月	久松与那覇湾	久松漁業 研究グループ	平良市漁協 県水試	今期は育苗時期に高水温で成長が遅れたことから、例年12月下旬に始まるイトモズクの収穫が約1か月遅い1月18日にずれた。 3月27日以降俣地区でヨコエビが異常発生し、商品価値が落ち、イトモズクは陸揚げするとアク（ネバネバ）が多くエビの除去が困難なことから、洗浄籠を製作して海中で洗浄してから陸揚げするよう指導した。 アンドンカゴに付着したアカイロカイメンの駆除指導	継続実施																				

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
							昭和60年度に構造改善で設置した浮きイカダと、61年度に設置したイカダの合計は82基、垂下養殖カゴ数は2,952カゴである。そのうち昭和61年度に使用を開始した55基の900カゴは海中に垂下してから3年を経過している。そのカゴに62年からアカイロカイメンの発生がみられ、5月と9月に黄色い粘液（産卵期か）を出す時期がありブドウが潰れていく現象がみられる。その対策を県水試に照会したところ、カイメンの付着しているカゴを引き上げて乾燥、洗浄をおこなってから再度養殖したほうが良いとの指導をうけて720かごの陸揚げを行った。	
	シャコガイの放流指導	7月	池間タチヤ タイリーフ 城辺町 吉野浜地先 保良パナリ	漁業者 市町村 漁協	県水試 平良市漁協 池間漁協 市栽培センター		63年5月17日～18日の2日間佐敷中城漁協、本部漁協の先進地視察 7月11日シャコガイ放流事業計画検討会を開催 7月12日水試八重山支場より2万個のシャコガイ種苗を受入れ市栽培センターで一時的蓄養後7月13日から2日間放流作業を実施した。	

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
							放流場所 タチャイリーフ 7月13～14日 10,000 吉野海岸地先 7月14日 4,000 保良パナリ 7月14～15日 6,000 放流及び調査の詳細は別紙資料 参照	作業人員 47名 31名 35名 継続実施

昭和 63 年度普及区域指導活動記録

都 道 府 県 名 沖 縄 県
改良普及員室名称 八重山支庁農林水産課
普及区域 八重山地区

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	若 者 等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	八重山地区漁村青少年協議会	7 月	八重山漁協 会議室	漁村青少年	漁協青年部 漁協、市		。漁業後継者対策事業の検討、策定のための委員会開催。 昭和63年度第 1 回議題 1.昭和63年度漁村少年水産教室について 2.技術交流について 資源管理型漁業（大分県姫島村）漁業士（本島 1 名、宮古 1 名、八重山 1 名） 3.交流学習会について 演題：漁場の自主管理について 講師：愛媛県遊子漁協長 古 谷 和 夫氏 4.漁村青壮年婦人活動実績発表大会の取り組みについて 昭和63年度第 2 回議題 1.漁村青壮年婦人活動実績発表大会の人選について	漁村青少年の意向集約実践活動の評価 委員会活動の自主性

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	者等	普及活動経過	翌年度への展開事項
								2.青年水産教室の開催について 演題：磯湖内の生物生態について 講師：琉球大学生物学科教授 西平孝氏 3.昭和63年度漁業後継者対策事業実施 (中間報告)について 4.昭和64年度漁業後継者対策事業実施 計画案について 5.その他 昭和63年度第3回議題 1.昭和63年度漁業後継者対策事業実施 報告について 2.平成元年度漁業後継者対策事業実施 計画について 3.漁村青壮年婦人活動実績発表大会の 反省について 4.青年水産教室の開催について 演題：つくり育てる漁業 講師：琉球大学理学部海洋学科助教 諸喜田茂亮氏 5.その他 。改善資金の事業計画の検討、策定及び申請書類の検討のための運営協議	
	沿岸漁業改善資金運用事業		4月 ～3月	管内全域	漁業者	漁市 農改普及所	協町		運用面での沿岸漁業改善 資金の貸付事業を普及指

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	漁村生活改善推進事業	7 月	与那国町 (久部良)	漁家婦人	漁協、町 農改普及所	会への参画 申請額 経営等改善資金20件 40,553 千円 ・漁村の生活環境、健康管理、漁業障害について生活改善普及員と協同で事業推進の計画の検討、策定のための参画	導し、活動の中に取り組む。 継続実施
調査事業	漁業公害調査	4 月～ 3 月	石 垣 市 (伊原間湾)	漁業者	漁協、市 水 試	・沿岸漁場の水質調査 水質測定器によるDO、PH、比重濁度、水温の測定(結果は主管課報告)	継続実施
	沈下魚礁調査(協力)	4 月～ 11 月	小浜島沖 西表島沖	"	漁 協 市 町	・魚礁効果調査と並行しながら、投下された魚礁の位置の確認と山立て等の写真撮影を行い、その効果と位置を周知すべく沿整用務に協力した。	効果調査及び集約
	表層浮魚礁調査	5 月～ 10 月	石垣島南 東 沖	研究グループ	漁協、市	・浮魚礁の増集効果と曳縄釣漁具試験のため3ポイント調査したが、高水温と同時に潮の流れが悪く、カツオマグロの喰い付きが良くなり、全体的に不漁の年であった。	継続実施
	シャコ貝の放流効果調査	10 月～ 11 月	名 蔵 湾 (赤崎地先)	"	漁協、市 水 試	・6月～8月に放流した殻長6～7mmのヒメジャコ稚貝 20,000 個体の生息状況と成長の追跡調査を行った結	

事業区分	課	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
		高瀬貝の放流効果調査	11月	竹富島東沖	"	"	果、約2倍以上の殻長15~20mmに伸長していた。活着率は全体の35% (ハマサンゴ) であった。 。昭和62年11月に放流した、15,000個体 (殻長4~10mm) の高瀬貝稚貝はほとんど見られなかった。(魚による食害かは不明) 同年に放流した標識貝黄色 (殻長60~80mm) 450個体の内60個体を採取し、測定したところ殻長88mm以上になっていた。 。専門技術員による「漁協青壮年部活動の進め方」についての研修 。シャコ貝 (ヒメジャコ) の埋め込み方式やピース式 (ハマサンゴ基質) による養殖 (中間育成) について技術交流を図った。 参加者10名 。青年漁業士を対象に大分県姫島村漁協の明治からの伝統である漁業期節や資源管理型漁業について技術交流を図った。参加者3名 (詳細については、昭和63年度水産	
研修事業	水産業改良普及員一般研修	水産業改良普及員一般	9月	水産業改良普及所	普及員	専	技	継続実施
	技術交流会		5月	中城村本部町	研究グループ	漁市町	協村	"
	"		9月	大分県 (姫島村)	青年漁業士	漁業栽培センター	普及所	将来、当地区の資源管理型漁業への推進と併せて漁獲管理型漁業への展望

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
	交流学習会		12月	伊江村	漁業者	漁協、市	業改良普及活動実績報告書参照) 。当地区のアオリイカ漁法は表層曳き釣りであり、海底すれすれを曳航する伊江村地域の漁具漁法の学習会と乗船実地研修を行い、技術交流を図った。参加者3名	継続実施
	"		12月	鹿児島県 鹿児島市 枕崎市	漁協婦人部	漁市 鹿児島県 鹿児島県 連	。浮魚礁周辺漁場で獲れるカツオ、マグロ（シビ）は大漁時に鮮魚では安く買いたたかれている現状である。これらを解消するため、カツオ、シビに付加価値をつける方法としての味そ漬、粕漬、しょうゆ漬等の学習会と実地研修を行い、併せて食品加工の衛生管理の面や流通についても交流を図った。参加人員6名	生活改善普及員とタイアップし、地域特産品としての加工方法を指導する。
	"		9月	八重山漁 協会議室	漁業者 漁協青年 部研究グループ 漁協婦人 部漁協役 職員関係 機関	漁市 協町	。愛媛県遊子漁協長・古谷和夫氏による「遊子漁協に於ける漁場の自主管理活動」についてと題し講演がありその後、活発なる意見交換や質疑があり有意義な学習会がもたれた。参加者55名	継続実施

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	漁業技術研修会		12月	"	研究グループ	漁協、市 専 技	。今年度のヒトエグサ養殖は、水温が高くしかも藻体の伸びが悪く雑藻の付着が多く見られたので、これらの技術的なことを克服するため、専技により養殖管理指導の講習会と併せて現場指導も行った。参加者10名。	
	"		3月	与那国町 (久部良)	漁業者 漁協青年部	漁協、町 八重山漁協浮 魚礁研究会	。与那国町漁協の漁業者は、これまで一本釣や曳縄漁業(カジキ漁)で生計を立てていたが、昨年度のカジキ漁が不振であったので、これまでの漁業経営の転換を図るため、マグロの流し釣や曳縄漁具漁法の講習会、漁具製作、乗船実地研修及び鮮度保持等の研修会を行った。	
試験事業	シャコ貝の放流試験		6月～ 8月	名 蔵 湾 (赤崎地先)	研究グループ	漁協、市 水 試	参加者10名 。殻長6～7mmのヒメジャコ稚貝20,000個体をハマサンゴを中心にドライバーとハンマーにより埋め込んだが、その後埋め込み方法の効率化を図るため、水中エアードリルを使用した。	継続実施 放流後の効果調査 人工基質及びピース式による埋め込み方法の指導
試験事業			3月	"			。同様に殻長4～5mmのヒメジャコ稚貝10,000個体放流した。	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
	高瀬貝の放流試験	8 月	竹富島東沖	"	"	(詳細については、第13回沖縄県漁村青壮年婦人活動実績発表大会資料参照) 。平均殻長18mmの高瀬貝稚貝 1,500 個を放流した。	継続実施 放流後の効果調査
指導事業	少年水産教室	7 月	水産業改良普及所	中学生	漁協、市	。漁村の子弟に夏休み期間中を利用して、水産に関する初歩的な知識と技術について学習させ水産業の役割について理解を図った。 八重山地区(石垣第二中学) 3 名参加 。琉球大学理学部海洋学科助教授・諸喜田茂充氏による「つくり育てる漁業」と題しての講演が行われ有意義な青年水産教室がもたれた。 参加者60名 。漁村の青壮年婦人グループの自主的な研究活動の成果を発表し、相互間の知識の交流と活動意欲の向上を図るため活動実績発表大会に参加した 「資源管理型漁業をめざして」八重山漁協青年部貝類増養殖研究グループ 貝志堅 武	継続実施
	漁村青壮年婦人活動実績発表大会	1 月	那覇市(水産会館)	漁協青年部研究グループ 漁協婦人部	漁市関係機関		継続実施

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
	水産物の加工指導		11月	八重山漁協	漁業者 研究グループ 漁家婦人 一般市民	漁協 加工業者	(詳細については、第13回沖縄県漁村青少年婦人活動実績発表大会資料参照) 。二東三文で取り引きされているアヤトビ(プーカー)をねり製品化し、かまぼこ原料としての加工技術を確保することによって付加価値を高めた。 トビウオの頭部と内臓を除きよし、身取り機ですり身にして、スケソウのすり身と半々に混ぜ、かまぼこ加工業者に委託し、油で急速加熱したかまぼこを県産業まつりや水産振興大会で試食会を行ったところ、好評を得た。	
	グループ指導		4月～3月	管内全域	漁協青年部研究グループ	漁市	。漁協青年部及び研究グループの組織や活動が弱体化しているので、関係機関と連携し組織の強化を進めている。	継続実施
	巡回指導		4月～3月	"	漁業者 青少年グループ		。漁村を巡回し、巡回相談、試験、調査等の事業を行っており、併せて漁村青少年グループの意向集約及び育成強化も進めている。	"

